



特集：フィリピン・プロジェクト最前線



栄養改善プログラムに参加する子ども



予防接種をする看護師のマデットさん



ジェネラルサントスのコミュニティ訪問とインタビュー・ワークショップの様子



パヤタスの支援活動を振り返って p.2-5
地域住民が支える医療支援活動 Madeth
職業訓練報告と作業所メンバーの紹介 Nathalei

ミンダナオの支援活動を振り返って p.6-11
ジェネラルサントス市での現地調査 山村隆徳
2004年の里親プログラム報告 Gerlie
サリフモクシン小学校の給食報告 Manuela

サンイシロの奨学金支援 p.12-13
伊藤洋子

協力者のご紹介 p.13
大学進学支援アンケート報告と会員募集 p.14

フェアトレードに参加して 河野 亮 p.15
新規会員、会員継続者のご紹介 p.15
ご活用ください> パヤタスのハガキ・写真 p.16

会員になってICANを支えよう！ p.16

ICAN (アイキャン) 特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-20-11 NPOプラザなごや2F
TEL&FAX (052)582-2244 E-mail: info@ican.or.jp ホームページ: <http://www.ican.or.jp/>

パヤタスの医療支援プログラム



マニラ首都圏ケソン市郊外にある、パヤタス・ゴミ処分場には、高さ50メートル以上、広さ10数ヘクタールに及ぶ巨大なゴミの山があります。そこでは、2000人以上の住民がゴミ拾いで生計を立てています。ゴミ山は、水も空気も汚染された過酷な環境にあり、健康状態を害されている人が多く、ICANでは、1997年から、パヤタスで医療支援をおこなっています。2004年からは、パヤタスの作業所で働く女性たちや、地域の女性たちが、ボランティアとしてプログラムに携わり、医療支援の一翼を担うようになりました。

パヤタスゴミ処分場でも、もっとも貧困層の多い、フェーズ という地区で、ICANスタッフとして医療活動に携わる看護師のMadethさんの報告をご紹介します。

コミュニティとのつながりで発展する医療支援プログラム

Madeth Mondares (マデット)

医療支援プログラムは、無料診療、コミュニティ・ヘルスボランティア研修、栄養改善支援の3つのプログラムから構成されています。2004年の、これらのプログラムは、地域に住む女性たち、支援を受ける側の人たち(栄養改善に参加する子どもの母親や医療支援で健康を回復した母親)と、双方によって実行され、やがて、ボランティアとして関わるパヤタスの女性たちも増えてきました。地域住民、支援を受ける側の人たち、ボランティアの動きは、コミュニティの中で体系化され、各活動の中でさらに大きな役割を担うようになっていきます。

1) 無料診療とボランティアの育成

無料診療は、毎週火曜日の午後と土曜日の午前中に、ヘルsteam(ガバガット医師、ルイス医師、6人のコミュニティ・ヘルスボランティア、私)が医薬品を提供しておこなっています。コミュニティ・ヘルスボランティアは、健康向上プログラムに取り組もうとするパヤタスの女性たちから成り立っています。ボランティアには様々な仕事が割り当てられます。主な仕事は、患者の名簿の作成、血圧や心拍数を測る、体重測定、記録、医師の手伝いや患者のサポート、投薬、衛生教育などです。



アウトリーチでの診療活動

コミュニティ・ヘルスボランティアが救急の際に私の手伝いをしてくれることが多々あります。例えば、発熱患者の身体の微温スポンジでの清拭(せいしょく)、包帯巻き、蒸気吸入などです。診察日に訪れる患者の数は平均して35人から50人です。患者は様々な地区から訪れており、ほとんどのケースが急性呼吸器感染症、肺結核、皮膚疾患、扁桃腺炎、寄生虫感染です。

他にも、衛生教育、外部診療補助、往診、アウトリーチ(コミュニティの訪問と問題へ気づきのアプローチ)などの活動があります。

コミュニティ・ヘルスポランティア研修では、左記のすべての活動は実地訓練を通じて学ばれますが、そのほかにバランガイ(現地語で地域の意味)でおこなわれる医療従事者研修やNGOのコミュニティ健康向上プログラムなどを通して正式な研修がなされます。また、「Violence against Women (VAW) (女性に対する暴力)」という講習会も開かれ、講演者や訓練士などが招致(しょうち)されました。



サバイタヨに参加する子ども達

そして、ガバガット医師とルイス医師との定期的なミーティングが毎月おこなわれていますが、その主な内容は、最新情報の更新、講義や企画立案などです。コミュニティ・ヘルスポランティアが時にはサバイ・タヨ(青少年健全育成プログラム)の子どもたちに、健康に関する講習会を開くこともありました。

2) 乳幼児と母親のための栄養改善プログラム

栄養改善プログラムは、栄養失調の子どもたちの状態の改善を目指しています。現在栄養失調の子どもたちが35人おり、そのほとんどが「Very Low (VL)」(非常に低い)または「Below Normal (BN)」(標準以下)という状況です。栄養改善プログラムの食事の提供は、月曜から金曜の午後におこなわれています。提供される食事は、栄養価の高いスープ、果物や牛乳などです。母親たちはグループに分かれ、市場へ買い出しに行ったり、食事の準備をしたり、調理して子供たちに食事を配ったりします。そして栄養状態を調べるため、毎月子ども達の体重測定をおこなっています。

子どもたちはCCC(コミュニケアセンター)で食事をとりますが、病気や悪天候の場合には、食事を自宅に持ち帰ることもでき、それは「テイクアウト」と呼ばれています。また、母親たちが忙しく食事の準備に追われている間、子どもたちはセンター内にて備え付けの道具やおもちゃで、遊ぶことができます。

母親たちは、学ぶ機会と育成する機会を持つことができました。母親教室などの活動も毎月開かれています。講師はバランガイ・ヘルスセンター職員、栄養師のテス、私が担当します。また女性に対する暴力に関する講習もあります。現在、栄養改善プログラムの一翼を、パヤタスの地域の女性たちが担っています。というのも、栄養失調の原因のひとつに貧困があるからです。

また、アイデアを出し合ったり団結力を強めたりするため、3か月ごとに母親たちによるクッキング・コンテストが開かれます。参加者の意欲を高めるために賞を設け、特に一番活動的な母親たちのグループに賞を贈っています。

特に栄養失調のひどい子どもたちには栄養補助ビタミン剤や牛乳を提供しています。年に2回、オペレーション・ティンバン(子どもたちを対象とした体重測定)が様々な地域で行われています。パヤタスの人々から学ぶことはたくさんありますが、それは、住民や、その家族とも、同じ時間を過ごすことから得られるのだと思っています。



栄養改善プログラムに参加する子ども

パタヤスでの職業訓練支援と作業所メンバー紹介

Nathalei V. Paril (タリー)

1) パタヤス...「約束の地」

パタヤスという地名を聞いて大抵の人が思い描くのは「ゴミの山」であり、私自身もここで働きはじめる前はその一人でした。私がパタヤスの街頭に初めて降り立ったとき、そこが「ルパン・パガコ」と呼ばれていることを知りました。ルパン・パガコとは「約束の地」を意味するのです。それからというもの、どうしてゴミの山が、そもそも「望みのものが手に入る場所」といった意味である「約束の地」などと呼ばれるのかということが気になり始めたのです。私は、この問いに対する答えを見つけようと心に決め、この地で働き始めました。

パタヤスは典型的な都会の貧困社会であります。ここに長くいる住人にとってはパタヤスに住めるということはラッキーなのです。美しい住まいや完全な電化とはいかないし、物質的に恵まれているとはいえないけれども、彼らはそこが他の貧困エリアよりずっといいと思っています。私たちの中には「どうしてそう思うの?」と聞きたいと思う人が多いでしょう。そう、答えは例の「ゴミの山」にあったのです。

パタヤスに住む家族の多くは“スカベンジャー(ゴミ拾い生活者)”です。つまり、彼らはゴミの山から得たもので生計を立てています。この仕事は大変な危険を伴いますが、何とかして生きようとする彼らにとって、危険を冒す価値のあることです。

快適な生活に慣れた私たちにとっては「パタヤスがなぜ約束の地?」と、やはり疑問ですが、そこで生きて家族を養うために必死で頑張っている人々にとっては、生活への期待が見出せる場所なのです。

私の人生の一部に、ソーシャルワーカーとして、また一人の人間として、私の心に、パタヤスがこれほど強い印象をむことになるとは全く思いもしませんでした。

2) 魚の釣り方を教えること...

「人に魚を与えると、その人は1日生き長らえる。でも、その人に釣りをする方法を教えると、その人はいつまでも生きることができる」

これは、貧困社会の自立を目標とする非政府組織(NGO)の基本的な理念であり、ICANはそうした組織のひとつです。

4年前に起きたパタヤスのゴミ山崩落の悲劇の後、様々なグループや個人から、様々な援助がパタヤスの人々にもたらされました。援助は一時しのぎに終わることも多かったところですが、ICANが導入した職業訓練は、その後、効を奏しています。

ICANの任務としては、母親たちのみの小集団を対象とするだけではなく、理想的にはもっと若い世代までも対象とすべきでしょう。現在のところICANは、未だ、ケソン市パタヤスのフェーズIIで、女性に対する職業訓練を、政府関連省庁と連携を取りながら実施しているという段階にあります。

パタヤスにおける様々な職業訓練を通じ、女性たちが稼ぎ、人間性を成長させるのを助けるべく職業訓練は進化していくでしょう。援助の目標は、そもそも、彼女らが生活のために稼ぐようになることにとどまらず、彼女たちの自負心を育て、女性としてだけでなく、一人の人間としての自分の価値を認識させることにあります。

3) 作業所で活躍する女性たち



作業所製品をバザーで販売

パタヤスで、ICANが職業訓練支援プログラムを本格的に開始した2000年、パタヤスの女性は、クローシェ編みや、裁縫、手工芸品制作といった様々な職業訓練をはじめとした、生計創出プログラムに参加し始めました。この頃の作業所メンバーを核として、2003年には、“Sikap Pangkabuhayan ng mga Nanay sa Payatas (パヤタスのがんばる母親達; SPNP)”という組織が正式に結成されました。2004年は、当初のメンバーは14名でしたが、8月に1名が、残念ながら、個人的事情で脱退しました。他には大きな問題は起こらず、現在に至っています。以下、SPNPのメンバー13名のうち6人をご紹介します。

チャリタ・アシスさんは、子供が7人いる忙しい母親です。彼女はゴミ拾いをしていいますが、なんとか時間を見つけてくまのぬいぐるみを作っています。彼女は、作業所の購買担当の一人であり、プロジェクトの材料購入を受け持っています。

ミルナ・ブランコさんは、陽気な人です。彼女は視力が非常に弱いという身体的な制約に関わらず、大学で地域開発課程を専攻しているお嬢さんのために、頑張っ

て働いています。ミルナさんはミシンの使い方がよく分からない(目が悪いので糸通しなどが困難です)が、その代わり手作業で、彼女の担当部分を作っています。ミルナさんは、ぬいぐるみにつける様々な飾り(ハート、リボン、プレゼント、クリスマスツリーなど)を作ります。彼女は、娘のレイナリンさんに手伝ってもらって、ビーズ細工も作ります。ミルナさんは、グループの監査役と医療支援プログラムのボランティアを兼ねています。

ビーナ・カルダマさんは、グループの識者の一人で、高校を卒業しており、子どもが一人います。彼女はグループの副代表を務め、医療支援プログラムのボランティアもしています。彼女はクローシェ編みで、かわいいブタ、ネコ、くまのぬいぐるみや、ヒマワリも作っています。

バンジー・ファバイさんは、ウェディング・ベアを含め、様々なサイズのくまのぬいぐるみを作っています。彼女も高校を卒業しており、子どもが7人います。バンジーさんは職業訓練・モニタリング・品質管理を担当しています。

ベルナデット・グミランさんも子どもが7人います。彼女は、高校3年間の課程を終えた後、学業を断念しました。(フィリピンの高校は四年制です)彼女はミシンを使えるので、パッチワーク製品用生地を裁断したり、飾りを何種類か製作したりするのを手伝います。ベルナさん

もクローシェ編みでミツバチやモジャコの製品を作っています。彼女は、衛生担当と医療支援プログラムのボランティアを兼ねています。

エレナ・キントさんは、高校を卒業しており、子どもが7人います。彼女は、ろうけつ染めのスカート(サンタクマの衣裳)を作っており、くまのぬいぐるみを作るのも手伝っています。エレナさんは購買担当の一人であり、医療支援プログラムのボランティアも務めています。

* (記事を書いていたタリーさんは、体調不良のため12月を持って退職されず、お疲れ様でした)

ジェネラルサントス市での現地調査

山村 隆徳

はじめまして。NGO 専門調査員です

みなさん、はじめまして。外務省 NGO 専門調査員の山村と申します。今年7月から来年3月までの期間アイキャンで働いております。

まずは、みなさんが疑問に思っておられるのは「『外務省 NGO 専門調査員』ってなんだ？」ってところではないでしょうか。この制度は、「NGO 活動に必要とされる専門性を有する人材に、特定分野・業務の強化を望む NGO 団体の活動や業務に一定期間参加してもらい、その分野・業務における組織としての機能を高めるための問題点を調査・研究し、提言してもらうことを目的と」するものです。私がアイキャンから(契約上は外務省・アイキャン双方から)依頼を受けた内容は 組織運営能力の向上、

広報の強化、 資金調達の3点に関するもので、そのための調査をおこなったり、聞き取りをしたりして来年3月に調査報告書という形で提言をする予定です。

そのような背景から9月中旬からミンダナオ島・ジェネラルサントス市で4週間滞在して、上に述べたような項目を重点的に住民から話を聞いたり、現地支援団体である Love and Life, Inc.のスタッフから話を聞いたりしてきました。詳しい調査結果などは分析がまだ出来ていないので後日改めてになりますが、今現在ある情報を元にして少し書いてみたいと思います。内容は、現地住民の収入についてです。



ジェネラルサントス市郊外の風景

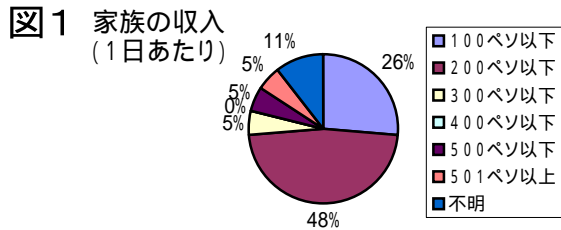
ジェネラルサントス市住民の収入について

みなさんはジェネラルサントスという所をどのようなイメージを持っておられるのでしょうか？時々テレビなどの特集で報じられる「貧しい住民たちが貧困にあえぎながら住んでいる所」でしょうか？それとも、アフリカのサバンナのような草原に住む「文明とは無縁な生活をおくる人達が住む所」でしょうか？それとも…

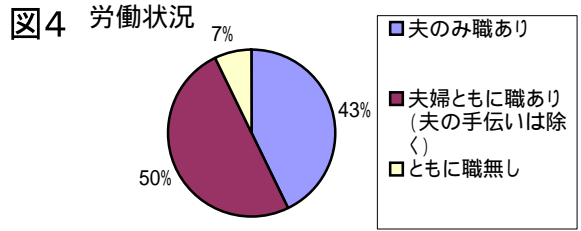
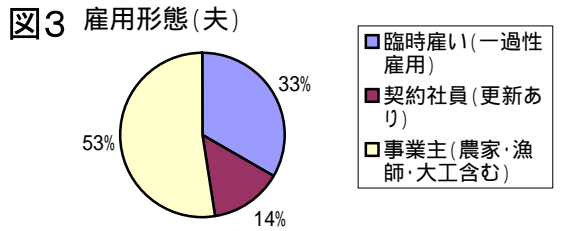
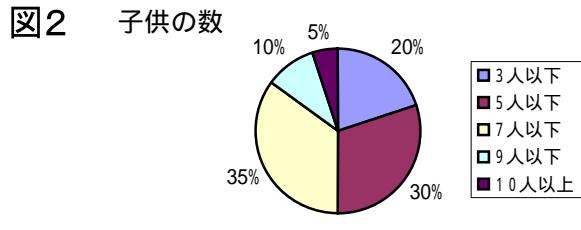
ジェネラルサントス市はマニラ、ダバオに次いでフィリピンで3番目に人口の多い街です。中心部には大きなショッピングモールが2つあり、その周りの道路にはトライシクル(三輪バイクタクシー)やジブニー(乗合バス)が溢れかえっています。そして、その中心部の周りには古くからある大きなマーケットがあり、いつも活気がある声が聞こえてきます。そのあたりを一見すると「貧しさ」や「悲惨さ」はないような感じさえするでしょう。しかし、その中心部から少し離れた所のコミュニティの人達と話してみたり、市の境に近いコミュニティに入ってみたりすると、そこかしこから「貧しいのが普通」という状況が顔を出してきます。左にあるのは、今回の調査で話を聞くことの出来た 23人からのインタビューを元にして作った家族の生活状況に関するデータです。

図1は家族の収入がどれくらいかを聞いたものです。実に70%以上の家族が1日200ペソ以下で生活しています。その価値はどれくらいかと言いますと、向こうの定食屋でご飯とおかず1品を食べると一人20ペソくらいかかります。日本の定食屋が大体500~600円ですから、日本人の金銭感覚で彼らの収入を考えると5000~6000円くらいでしょうか。また、80%の家族で 4人以上の子どもがいます。(図2)多い人で13人も子どもがいます。

次に図3と4は労働条件に関する質問の答えです。図4から見えるのは、夫婦が一生懸命



* 彼らの多くは週に2~3日程度しか仕事がありません



働いても一日200ペソしか稼ぐことができないという事です。また、図3を見ると80%以上の家族の「おとうさん」が一時雇いの仕事か自営業をおこなっています。この一時雇いの仕事は日本でいうアルバイトのようなものではなく、本当に一時的(例えば2ヶ月だけとか、3ヶ月だけとか)に雇用してもらえらるというもので、その期間が终れば、次の仕事をあてがってくれるわけもなく仕事を失います。また、自営業は、仕事自体はなくなりませんが、毎日仕事があるわけではありません。店舗を構えてやっているわけでもありませんので、友人からの口コミで仕事もらえたり、近所の知り合いから仕事をもらったりしてお金を稼がなくてははいけません。つまり、多くの家族が安定して収入を得られていないという事です。

これらの情報から、一般的なジェネラルサントス市民の家族の風景をイメージしてみると、6人以上の大家族が一緒に暮らし、「お父さん」は時々仕事をしに行き、「お母さん」も洗濯洗いの仕事を時々しながら家族の収入を助けています。それでも、家族の収入は多く稼げても一日200ペソくらいしかなく全くお金がない時もあります。しかも、このような家族が少数派として虐げられて存在するのではなく、多くの家族が同じような状況にあるのです。「普通」の状況として「そこ」にあります。



陽気で元気な子ども達

最後に

最後に、このような状況で生きている彼らですけど、そのような事を感じさせないくらい、本当に、陽気で明るい人達です。子どもはもちろん、大人たちもそうです。暗くなってもしょうがないと思っているのか、これが「普通」だから何とも思わないのかはわかりません。ただ、彼らがこの生活を十分だと思っているわけではなく、チャンスがあれば、そのチャンスをつかんでがんばりたいと言っています。そのように思っている人達を支援できるアイキャンであってほしいと思います。

ミンダナオの子ども達の就学を支援する里親会員募集！

ミンダナオ島・ジェネラルサントス市では、経済的貧困が原因で、学校に通うことができない子どもがたくさんいます。里親会員になって、彼らの就学を日本から応援してみませんか？年会費 18,000 円で、現地からは年に 1~2 回、子どもからの手紙や写真が届き、担当の子ども成長を実感することができます。ぜひご参加ください！

2004年里親プログラム報告

Love&Life ソーシャルワーカー Gerlie Grace B. Diaz

1)2004年の里親プログラム総括

Love&Life(以下L&L)が、ジェネラルサントス市で里親支援の活動を開始して、今年で11年になります。毎年、成長を続けています。2004年は大学生3人、高校生・小学生161人の合計164人の就学を支援しました。その内23人は新しい奨学生です。2005年3月に高校を卒業見込みで、大学進学を希望している高校4年生も8人います。彼らはミンダナオ州立大学の入学試験に挑戦しました。

2004年は、L&Lのプログラムとサービスは非常によかったと思われます。なぜなら、奨学金支援対象の子ども達は、家庭の事情等でジェネラルサントスを離れることもなく、全員支援を受けることができ、それぞれ学校で勉強しているからです。L&Lの提供しているプログラムとサービスは教育支援、医療費補助などで、医療費補助には入院費用も含まれます。実際、今年は、Jubert Pansoyさん(右腕骨折で手術)やMark Vincent Jaboniteさん(交通事故による左足診療)、Aljun Alegriaさん(腎不全)、Ariel Tajoresさん(腸チフス)など、7人の奨学生が医療補助を受けて入院や診療を受けました。

次に、今年の夏休みには、奨学生を対象に、昨年のスポーツ活動と同様、交流/レクリエーション活動を実施しました。また、2004年9月11日にはKatangawan Resortへ出かけ、総会をおこないました。リゾート地でのレクリエーションは、滅多にあることではないので、子どもも家族も水泳を楽しみました。

精神的な豊かさを育成する活動やカウンセリングも行いました。L&Lには監査役を務めるRodolfo Orbigozoさんがいます。

彼は、毎週、奨学生の暮らすいろいろな地域で、必要に応じてカウンセリングをおこないます。牧師である彼は、時々、聖書学習会もおこないます。

2004年9月11日の総会でも、「家族の絆、責任、そして精神的価値」をテーマに、カウンセリングを行いました。カウンセリングを通じ、出席者は、「親子関係をいかにうまく保つか」「親の子どもに対する、また子どもの親に対する責任とは何か」について学びました。また、精神的価値については、信仰している宗教が何であれ、神の言葉を大切にすべきであること、そして神の教えにのっとった子どもの育て方について教わりました。



2)自立を目指す新しい取り組み

最後に、L&Lでは奨学生の家族には、収入向上支援プログラムを提供したいと考えています。L&Lでは、ろうそくの販売は、収入向上に非常に効果的であると理解していますし、すでに訓練の予算も確保しているのですが、技術指導のできるトレーナーがいないために、ろうそく作りの訓練ができないでいます。

家族は、訓練を受けたがっていますが、ろうそく作りの実施ができないため、サンロレンツォの親の中に、ほかの地域でおこなわれた2004年2月にDSWD(フィリピン社会福祉開発省)のスリッパ作りの訓練に参加した人もいました。2004年4月には、フィリピン農業省のプログラムに属する地域改善グループ(RICグループ)と一緒にスリッパ作りの訓練を受けています。サンロレンツォには奨学生の家族が30家庭ありますが、そのうち4人だけがスリッパ作りの訓練に参加しました。

訓練は、収入向上プログラムとしては最適であるように思われますが、実際には、皆、材料費の確保ができなくて、実際のスリッパ製作に入れません。奨学生のジョフェル・エスピノサの家族だけが、学んだことを実践しています。エスピノサ夫人は、訓練に参加し、夫の助けを借りてスリッパ製作に携わっています。

彼らは共に一生懸命働いているので、非常に少ない資本で、質の良いスリッパを作るのがとても上手くなりました。作ったスリッパが全部は売れなくて資金に行き詰まり、作るのを中止したこともあります。今ではエスピノサー家は買付け人の需要に応じるために、日本のICANに資本金の援助を求めています。買付け人たちは大量にスリッパを購入しますが、夫婦がその要求に応じきれずスリッパが足りないこともあり、夫婦は買付け人を失うことを心配しています。彼らが今必要としているものは、資本金です。彼らは、既に訓練を受けたL&Lの3人をスリッパ作りの仲間に入れる予定をしています。

こういった収入向上プログラムは、家族の収入を増やすのにとっても有益だと、L&Lでは理解しています。このような小さな商売でも、将来成功すると予測しています。彼らの商売は広がります。L&Lの他のメンバーたちとそれを広げる計画を立てています。行く行くは自分たちの地域社会にも広げていく予定です。これは、彼らが達成したがっている夢です。こういったプロジェクトの提案が通れば、全てが実現するのですが。

3) コミュニティでのミーティング

L&Lの活動にはコミュニティ(地域)とのミーティングもあります。これは、調査員の山村隆徳さん、スタッフのテスさん、ボランティアの佐藤未希さんと、L&LスタッフのGerlie、Grecildaと共に、この9月から開始したばかりです。地域へ働きかけるのは良いことです。家族や奨学生だけでなく他の家族たちとも密接な関係を築くことができます。

この活動を通じて、奨学生や家族たちは、L&Lや佐藤さん・山村さんからの情報により、里親の意見、運営の現状などを知ることができます。また、フィリピンから遠く離れた日本に住む里親に、支援の継続を促すような考えや、里親との密接な関係を築くアイデアを、家族たちから寄せてもらうこともできます。家族たちは、子どもの里親に、子どもたちの現状、学校教育、里親に知ってもらいたい重要な情報などを伝える手紙を書いたらどうかと提案してくれました。



また、ミーティングを通じて、私たちは、子どもや家族の個人的な問題や、L&Lのプログラムやサービスの実施方法に関する問題点も知ることができました。山村さんの帰国後も、地域とのミーティングは続けられ、家族たちは、問題点や考えをためらうことなく発表するようになりましたし、私たちL&Lや佐藤さんとの意見交換になじんできました。両親たちは、自分たちの意見を自由に発言し、プログラムやサービスをおこなうに当たって改善すべきところを提案するようになりました。

両親たちには提案する権利があります。L&Lは、奨学生とその家族がいること、里親からの支援があることによって、団体としての存在価値を維持しているからです。

L&Lは、ジェネラルサントス市の恵まれない子どもたちのニーズに応え、教育支援をおこなってくれるICANに感謝しております。教育は誰も奪うことができない唯一の宝で、とても重要なものだと私たちは考えています。また、ICANの寛大なご支援により、子どもたちの輝かしい将来の構築の一翼を担うことができ、非常にうれしく思っております。

サリフモクシン小学校の給食プログラム

Manuela C. Sanz

サリフモクシン小学校はジェネラルサントス市で経済的に恵まれていない子どもたちが多く通っています。学区内の住民は漁師、ココナツ農園の労働者、養殖池の個人経営者らで、その収入は日々の生活にも事欠くほどです。特に食事や学校で使う物品には手が回りません。父兄の収入水準は非常に低く、子どもたちは朝食抜きで空腹をこらえて学校に通っています。そのため130人の子どもたちが栄養失調と診断されました。栄養失調の子の大半は小学校の低学年、1・2年生です。

1) ICANの給食プログラム

ICANが私たちの学校を対象に給食プログラムを実施するようになって、5年目です。7月4日に18,000ペソが学校に送られ、今年度のプログラムは7月6日に始まりました。ICANの給食プログラムは週に1回おこなわれ、年間で40回、各回100人の生徒に提供します。100人に加え、20人にも給食が提供されます。この20人は家で食べるものがないにもかかわらず勉強をしたいという熱意を持っています。

ICANに支援していただいている給食プログラムは、当小学校の栄養失調の子どもたち100人にとって得がたい機会です。支援のおかげで、栄養のある食事を子どもたちに提供することができました。給食のメニューの例とレシピをを挙げてみます。

鶏肉と野菜のスープ・ティノランマノック(材料: 鶏肉、パパイヤ、にんじん、ピーマン、黒こしょう、クローバーのような野菜マルンガイ、クノール社チキンスープキューブ)

作り方: 1) パパイヤ、鶏肉を切ります。

2) 鶏肉を炒め、にんじん・ピーマンを加え、黒こしょうで炒めます。

3) チキンスープを加え、パパイヤを加えます。

4) パパイヤに火が通ったら、マルンガイを加えます。

チキン春雨・ソータンホン(材料: 鶏肉、春雨、クノール社チキンスープのキューブ、ネギ、にんじん、赤ピーマン、黒胡椒)

作り方: 1) 肉を細切りにし、春雨はもどして粉にします

2) ネギ、にんじん、赤ピーマンを炒めます

3) 鶏肉を加え、チキンスープで味付けします

4) 春雨を加え、水分がなくなるまでかきまぜます

2) 給食プログラムが子ども達にもたらす効果

給食は週1回、なるべく火曜日に実施するようにしており、毎回お米6キロを使います。給食プログラムは栄養失調の100人だけでなく、お弁当を持ってこられない20人前後の子どもたちにも提供されます。火曜日以外の日には、先生たちがお弁当を余分に持ってきて、子どもたちに分けています。おなかを空かせたままだと学業に影響するからです。食事をとっていない子どもたちは病気がちで虚弱体質な上、些細なことにイライラしたり、居眠りしたりし、勉強に関心を示しませんでした。授業中の話し合いにも参加せず、



奨学生たちには折に触れ、どうしてアイキャンが支援しているのかということについて話しています。奨学金プログラムは、ある個人が貧しさから抜け出すために教育を受けるのを支援しているというだけではありません。教育を受けた人が今度は自分がもっと貧しい人たちの生活向上のために貢献できる人になるためだと言いつけています。教育を受けて、知識と自信をつけた子どもたちが村で活躍する日がやってくるのを村人も私たちも楽しみにしています。農業を学んで今は村にない技術を普及させたいと意欲的なフランシスコ・ドロテオさんがお手紙を書いてくれました。

私はフランシスコ・ドロテオです。高校4年生です。みなさんにお礼を言い、自分の夢をお伝えするためにこの手紙を書いています。

まず、アイキャンのみなさんにとっても感謝しています。私たちが学校へ通えるように支援するためにとても大変な思いをしてここまで来てくれます。小学校6年生から支援していただいています。みなさんからのご支援のおかげで、来年には、高校を卒業することができます。

私の夢は、大学で農業を勉強することです。もしも大学までご支援いただけましたら、そのご恩は絶対無駄にいたしません。みなさんが私たち奨学生に与えてくださったご支援を、今後良いおこないをして、お返ししていくつもりです。

みなさんのような支援団体がある日本に感謝いたします。私たちのように経済的に貧しい人たちを今後も助けてくださいますように。

書き損じハガキキャンペーン

山岳農村の教育を支援する書き損じハガキのキャンペーンをおこなっています。この機会に年賀状の書き損じなど、学校や企業等でも集めてご協力いただければ幸甚に存じます。

皆さんよろしくお願い致します。

ミンダナオの里子にハッピーニューイヤーカードを送ろう!

里親会員の皆さん、ご担当の奨学生に、ハッピー・ニュー・イヤー・カードを送りませんか？現地の子ども達や家族にとって、里親さんからのメッセージは、宝物になります。1/15までにカードを事務局にお送りいただければ、現地へ転送します。

里親の皆様からのカードを、首を長〜くして、お待ちしております！

ご協力者のご紹介 ありがとうございます! (2004年11~12月)

<文房具> ミンダナオの子ども達への贈り物にしました!

伊藤あづ沙さん、河村由香里さん、啓蒙小学校の皆さん、浅田愛さん、
沢上中学校の皆さん、小林美穂子さん、京町小学校の皆さん、三島西中学校の皆さん

【集まったカンパ】 14,609円

<書き損じハガキ> サンイシロの山村教育に活用します。

松原貴之さん、高沢美和子さん、三角広さん、小熊広也さん

【集まったカンパ】 5,400円 相当

<商品券> 運営費に活用します

福富幸恵さん、伊藤宏哉さん

【集まったカンパ】 12,000円 相当

<その他> 田中さんよりパソコンの寄付をいただきました。

ありがとうございます!

授業内容にも注意を払いませんでした。彼らは学校を休んでばかりいるか遅刻するかのどちらかで、最後にはドロップアウトするので問題児とみなされていました。

ICAN支援による、毎週火曜日の給食プログラムが始まってから、ゆっくりとはありませんが子どもたちの栄養状況が「重度の栄養失調」から「中度」に改善されてきました。またかつては虚弱で精神的に安定せず、居眠りをしていた子どもたちが健康になり、授業に関心を示すようになりました。欠席や遅刻も減少しました。子どもたちが火曜日の給食を楽しみにしているからです。



以前は昼食をとっていなかった子どもも、給食プログラムによって、授業中の話し合いに参加し、授業内容に対する集中力の向上がなされました。そして、フィリピン教育試験研究センターが実施している学力診断テストの結果もずっとよくなり、テスト科目のほとんどで75パーセント以上の学習習熟度を達成しました。



給食プログラム以外にも、鉛筆、ノート、クレヨン、ボールペン、消しゴムなどの学用品が年に2度送られ、勉強にも課外活動にも役立っています。先日送っていただいた物品は子どもたちに等分に配られ、その模様をとった写真はすでにお送りしました。経済的に苦しい状況にあって学用品を買えない子どもたちにとって、ありがたい物ばかりでした。

私、校長のManuela C. Sanzはほかの先生方とともに、みなさんが支援を続けてくださるようお願い申し上げます。私たちは手に手をとって、栄養たっぷりの給食を十分に子どもたちに提供できるよう努力していく所存です。

ミンダナオでは、給食プログラムを支援してくださる給食会員、子どもたちに文具を送る物資支援協力者を募集しています。

給食会員は年会費6000円、

文具支援は、新品の文具に英語のメッセージカードを添えてお送りいただき、1kgあたり400円の送料カンパをいただいております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



ミンダナオの子どもからの感謝の手紙

サンシロはリサール州アンティポロ市の山間部にある山村です。村へ行く道が舗装されていないため、雨季にはジプニー(乗り合いバス)が村まで入って行けないこともあります。住民のほとんどは天水に頼った農業を営んでおり、一家を養うには十分な収穫がなく、それを補うために、山の木を切って炭を焼いたり、木を運んだりして現金収入を得ています。

2000年からアイキャンはこの地域に住む少数民族の子どもたちを対象に奨学金を支給しています。当時は、村の公立小学校が5学年までしかなく、ほとんどの子どもたちが小学校5年生までしか学校教育を受けることができませんでした。(フィリピンでは、小学校は六年制、中学がなく、高校は四年制です)そのため、アイキャンでは村の私立の小学校に6年生から編入し、私立高校へ通えるように学用品、授業料などの支援を始めました。



その後、公立の小学校に6学年ができ、山道を歩いて1時間ほどのところに3学年までの公立高校もできたので、現在は2人が私立高校へ、7人が公立高校へ通うのを支援しています。

サンシロへ行っていつも思うのは、このような奨学金で私たちが子どもたちに与えられるものよりも、私たちが与えられるものの方がとても大きいということです。物質的なものという意味ではありません。物はこの地域ではいつも欠乏しています。しかし、物が無いからこそ、精神的な豊かさであふれているのです。人と人とのふれあいや、やさしさ、助け合いの精神で満たされています。

しかし、心が豊かだからといって、何も問題がないというわけではありません。この地域では、特に女性が十代半ばから後半にかけて結婚するというのが一般的です。今まで2人の奨学生が結婚のため高校を中退しました。そして、結婚するとすぐに出産します。数ヶ月前には、若いお母さんが出産時に破傷風に感染し、亡くなりました。村には病院がないので、けがをしても病気になっても町の病院へ行かなければならないのです。また、雨季には、何時間も歩いて病人を担いで山を降りなければならない時もあります。



焼畑や灌漑(かんがい)設備の整っていない水田から得られる収穫は十分ではなく、物質的にはとても欠乏しています。一日3食食べられない時期もあります。焼畑は山奥の、立つのもやっとの急斜面にあります。一度焼畑へ行くと何日もそこに泊まって働きます。幼い子どもたちを家に置き去りにするわけにいけないので、子どもも一緒に焼畑に泊まることもあります。そうすると、学校へ行けなくなってしまうのです。

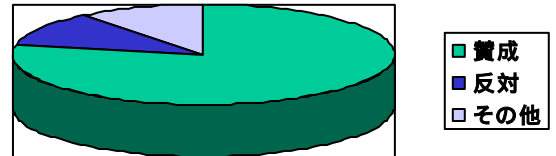
大学進学・職業訓練支援についてのアンケート結果ご報告

2004年6月に、里親会員を対象に、高校を卒業した奨学生(里子)への支援について、アンケートをおこないました。

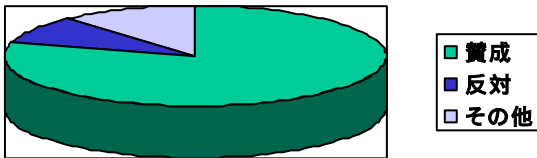
2004年3月に3人の奨学生が高校をめでたく卒業しました。一方、高校を卒業しただけでは仕事を見つけるのが難しいジェネラルサントスの現状をかんがみ、ICANとL&Lで検討した結果、高校を卒業した子どもへの支援継続を視野に入れ、2004年に、試験的に大学進学支援をおこないました。

アンケートは、この大学進学・職業訓練支援の本格的な実施について、ご意見をいただくものでした。現在試験的に実施しているプログラムを本格施行するかどうかの判断の上で、参考にさせていただきました。会員150名中、37名の回答をいただきました。どうもありがとうございました。

37名の回答者中、大学進学に賛成の方は29名、反対・その他の方は8名でした。反対の理由としては、「小中学生を優先したい」との意見が多くありました。



大学進学支援の賛否



職業訓練支援の賛否

大学進学を希望しない、もしくは不合格の子どもへの職業訓練支援については、賛成27名、反対3名、その他・未回答7名でした。職業訓練については、「里親の見つからない里子を優先したい」「明確に効果がある(客観的データが示せる)ならば、賛成」といった意見が出ました。

回答者37名中、大学進学は29名、職業訓練は27名の賛成があり、過半数となりましたので、高校を卒業した奨学生への大学進学・職業訓練支援を正式に開始します。皆さん、ご理解とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

2004年6月より、ミンダナオ州立大学へ通う、ダリルさんから、手紙が届きましたので、内容を抜粋してご紹介します。

ICANで支援をしてくださる皆さんにお礼を申し上げます。おかげで高校を卒業でき、今は大学に通っています。両親を失い、妹と一緒に祖母に引き取られ、ICANの支援で学校に行けるようになった僕的生活は、まるでドラマのようだと感じることがあります。ミンダナオで就学支援があったことと、里親とに、心から感謝しています。

メリークリスマス&ハッピーニューイヤー！ ダリル・バンダラン

大学進学・職業訓練支援会員募集！

大学進学支援会費：36,000円

(内訳：ミンダナオ州立大学の学費：28,600円、L&Lの人件費・里親への連絡諸費用：7,400円)

職業訓練支援会費：18,000円

(内訳：TESDAでの職業訓練受講費用：14,300円、L&Lの人件費・里親への連絡諸費用：3,700円)

よろしく願いいたします。

みなさん、はじめまして、こんばんは。ビビル大木にちょっと(かなり?)似ている河野亮と申します。今年1月からアイキャン会員にならせて頂いてもう1年、時の経つのは早いものですね。

フェアトレードは、簡単に言うとパヤタスのゴミ処分場のそばの作業所で、お母さん方が心をこめて作られた手作りのぬいぐるみや、スカート等のハンドクラフトを日本で売る事業のことです。日本では学園祭やボランティアイベントでブース出展を販売をしており、私は事務局から販売ボランティアの募集の案内を頂いた時にお手伝いをさせて頂いています。



豊明のワールドフェスタにて
(左からビビル大木、鈴木一成さん
渡辺由紀子さん)

私はパヤタスには行った事はなく(皆さんのICANだよりの内容から、温かいところだと想像していますが、)日本のブースもまたパヤタスにはない温かさがあります。ブースでは社会人の他に、ブースの飾りつけから販売まで一生懸命に取り組んでくださる大学生から小学生までの子ども達に出会います。こんないい子達がこの日本にたくさんいるんだなって気づかせていただくと、それだけでもうれしくて胸一杯になります。

その他にも豊明のワールドフェスタでは、企画の方が、ブース出展できるよう後押ししてくださった上に「これからも頑張ってください」と応援してくださったり、お客様も熱心にパヤタスの現状を聞いてくださり、商品を買うだけでなくいろいろと励ましの言葉をかけてくださったりします。ブースで皆さんの温かさに触れると世間のいろんなしがらみを忘れることができ、不思議と心が癒され元気になれます。皆さんも一度フェアトレードに参加して一緒に癒されてみませんか？

新規会員、会員継続者、寄付者のご紹介 (2004年11月~12月)

<新規会員>

里親会員: 松原貴之さん、對馬由美子さん、伊藤宏哉さん(東邦高校H組の皆さん)、竹宮純子さん

医療会員: 江口由希子さん

<会員継続>

里親会員: 森広和さん、福富幸恵さん、太刀原祐二さん、仲田誠司さん、吉田郁子さん、河野亮さん、水口正仁さん、宮地厚さん、服部英子さん、小倉笑美子さん、沼崎清子さん

医療会員: 河野亮さん

一般会員: 宮地厚さん

維持会員: 服部英子さん

<ご寄付>

大畑敦さん、澤井美智子さん、山田正子さん、依田達幸さん、佐俣寅雄さん、牟田亜城子さん、松原貴之さん、澤井美智子さん、吉田郁子さん、瀬戸裕子さん、沼崎清子さん、長井昭三さん、岡田喜美江さん、神戸小学校、東邦高校、片岡淳子さん、水口正人さん、長井昭三さん、山田知子さん、服部英子さん

寄付金総額: 96,319円

ご支援、ありがとうございます!

<< 会員になってICANの活動を支えよう! >>

(ICANの活動は会費と寄付金で支えられています。事業会費・事業寄付金は20%が運営費、80%が事業費となります。正会費、運営寄付金は全て運営費となります。)

< ご支持頂けるものを選んで御参加下さい。 > (1~4は事業会費、5は正会費です)

(1) 貧困家庭のための里親制度(年会費1万8千円)

一定収入に満たない家庭の子どもに学費・学用品費・医療費等を支援します。1対1の支援です。

(2) ミンダナオの小学校での給食提供(年会費6千円)

少数民族の小学校で、先生や保護者の方と一緒に、栄養不良児に給食を提供しています。

(3) パヤタス支援(年会費6千円)

ごみ拾いで生計を立てている住民が多くすむパヤタスで、職業訓練や医療支援を行っています。

(4) 山村教育支援(年会費6千円)

山村サンイシロで、先住民のために、未就学児童やハイスクール生等の教育支援を行っています。

(5) ICANの運営等の活動全般へのご支援(一般会費3千円、維持会費1万円)

活動全般を支えて頂く正会員です。翻訳や事務局を手伝って頂くボランティアも募集しています。

パヤタス支援活動の広報に
ご協力ください!

ハガキを販売しています

パヤタスゴミ処分場の現状を伝える
写真入のハガキを、1枚100円で販売
しています。ご活用ください。

写真を貸し出します!
写真展を開いてみませんか?

パヤタスの実情を多くの人に知って
頂くため、プロの写真家によるパヤタ
スの展示用写真を、希望される学校、
団体等にお貸しします。

また、スタッフが学習会のお手伝い
もします。写真展を開いて見ません
か!!

< ご興味のある方は事務局へ >

1. 寄付金: 原則1万円 / 1回(応談)
別途、送料はご負担頂きます。



Photo: YOKO KUMAI

スモークーマウンテン

熊井 葉子

(ハガキ・貸出用写真 両方有)

スモークーマウンテンは、マニラ中
から 集められたゴミの山である。
この周りでは悪臭や、のどを刺激
する有毒ガスが満ちている。ゴミが
腐って辺りは滑りやすくなる。
けれども貧しい人たちにとっては
ここは「宝の山」なのだ。彼らはゴミ
を拾い、現金に換えることで生活
をたてている。

第二のスモークーマウンテンがあ
る、パヤタスという小さな町を、人
は、「希望の町」と呼ぶ。



(名大祭のバザーにて)

ICAN会員の、内田隆さんと
渡辺由紀子さんが、12/12に
ご結婚されました。いつも
仲良くボランティアされていた
お2人、これからもお幸せに!

ご入会のお問合せは、ICAN事務局まで(受付時間: 火~土 13時-17時)

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-20-11 NPOプラザなごや2F

TEL&FAX (052)582-2244 E-mail: info@ican.or.jp ホムペーヅ: http://www.ican.or.jp/

会費と寄付金の振込先

郵便振替) NPO法人 ICAN, 00850-6-78233

UFJ銀行) 名古屋駅前支店 普通 2361021 NPO法人 ICAN (エヌピー-オ-ハウジンアイキャン)

E-BANK) 支店番号210 口座番号 7001258 特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター

JAPANNET BANK) 店番号001 口座番号 4005809 特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター